



- ① 甲子町の農家ででの稲刈り体験
- ② 最終報告会で2週間の気づきを発表
- ③ 鶴住居町の「みのすけ沼」で外来植物の除去
- ④ 箱崎町の農園で商品開発に使ういちごを収穫
- ⑤ 1週間の活動を終え仲良くなったインターン生



## インターン生を受け入れて

釜石で自ら行動する面白さを伝えたく企画しました。都内と地元の若者が協力し、2日間でいちごの商品開発から提供まで成功させた姿には感動しました。新しい挑戦を受け入れる釜石ならではの体験で、学生からは「滅多にできない経験」という声もありました。これからも私が移住して得た学びを次世代へ還元し続けたいです。



釜石市右腕型地域おこし協力隊  
松田 知也 さん

インターン生が書いたnote記事は「TRY!!! Kamaishi事務局」に掲載されます



## ただいま、釜石

インターンシップを通して心に残ったことは、2週間を共にした仲間たちとの出会いです。初対面の人たちとの共同生活に不安もありましたが、みんなの優しさに支えられ、楽しく過ごすことができました。グループワークや共同作業を通して交流を深めたり、夜遅くまでトラランプをしたり、花火やカラオケを楽しんだり、たくさんの思い出が



中央大学 1年  
大瀧 真央 さん

ことができました。仲間たちと過ごした時間は、これまでで最も濃く、忘れられない夏になりました。これまで私は、人口減少が進む釜石の未来について、悲観的に考えていました。しかし、今回のインターンシップで地域で活動する皆さんの話を聞き、釜石の人だけでなく、市外から来た人も、起業やさまざまな活動を通して地域を盛り上げようとしている姿に心を動かされました。その姿を見て、釜石出身でありながら何もしてこなかった自分に気づくと同時に、自分にも何かできることがあるのではないかと感じました。これから釜石に関心を持ち、積極的に関わっていききたいです。



## はじめまして、釜石



横浜国立大学 4年  
塚崎 真広 さん

私は、福井県出身で今は横浜に住んでいます。どちらの地域でも、まちを自分ごととして話す場はあまりありませんでした。釜石では、この場所ですべての大人も、外から移り住んだ人も、学生たちも、自分たちがこのまちをどうしたいかを考え、語っている姿に驚きました。その中で最も印象に残ったのはゲストハウス「やまととき」のオーナーの大井「こめとき」のオーナーの大井

さんとの出会いです。大学の授業や多様な地域でのフィールドワークを通じて地方創生について考えてきましたが、これほど自由な発想を持ちながら現実的な計画に落とし込み、ご自身のアイデアと地域資源を組み合わせて釜石の未来を形作ろうとされている姿には深く感銘を受けました。また、それは大井さん一人の力だけでなく、運営を支えるスタッフの皆さん、そして大井さんのような外部からの挑戦者を受け入れる自治体や釜石の寛容な地域文化があったからこそ実現しているのだと強く実感しました。このまちの人に会いに、また帰ってきたい。そう思える2週間でした。

## かまチャレとは？

「かまチャレ」は、大学生が釜石での仕事や暮らしを体験するインターンシップ事業です。

今回は、大学生が、釜石での仕事や暮らしを体験することで地域の魅力に気づき、インターンシップ終了後も継続的に釜石と関わりを深めてもらうため実施しました。参加した学生たちは、市役所や市内企業での活動、地域住民との交流、まち歩きなどを通じて、釜石での暮らしや仕事を体感。実際に地域で過ごす中で、釜石ならではの魅力や地域が持つ可能性に触れ、それぞれが新たな気づきや学びを得ています。